



Title	活動報告 平成29年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界を目指して」第1回～6回
Author(s)	
Citation	長崎大学核兵器廃絶研究センター年報, 2017, pp.65-74; 2018
Issue Date	2018-04-30
URL	http://hdl.handle.net/10069/38401
Right	

This document is downloaded at: 2019-04-26T10:33:50Z

<活動報告>

平成29年度 核兵器廃絶市民講座

核兵器のない 世界をめざして

受講料
無料

事前申込
不要

全6回で開講いたします。一緒に核兵器廃絶に向けて考えましょう。

(第3回目は佐世保・アルカスSASEBOで行います。)

*場所・時間はいずれも下記のとおりです

1	5/27(土)	トランプ政権の 核政策と日本	吉田 文彦 RECNA副センター長 太田 昌克 共同通信編集委員/RECNA客員教授 鈴木 達治郎 RECNAセンター長 (コーディネーター)
2	7/22(土)	ヒロシマ・ナガサキのメッセージを 世界にそして未来世代に (核兵器のない平和な世界をめざす平和首長会議の活動)	小溝 泰義 広島平和文化センター理事長 森永 玲 長崎新聞論説委員長/RECNA客員教授(聞き手)
3	9/2(土)	核兵器禁止条約への動きと これからの展望	中村 桂子 RECNA准教授 会場：アルカスSASEBO 大会議室A
4	11/11(土)	朝鮮半島の非核化:その現状と展望	ソン ヒョンジン 孫 賢鎮 広島市立大学平和研究所准教授
5	12/16(土)	戦後長崎における被爆の痕跡と復興 —1940年代、50年代を中心に—	桐谷 多恵子 RECNA客員研究員
6	2018年1/20(土)	『ゴジラ誕生』:私たちの核兵器イメージ	広瀬 訓 RECNA副センター長

時間 13:30～15:30
(15:30～16:30「RECNAと語ろう」)

1 2 4 5 6 会場

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジ
(地下2F)

住所：〒852-8117 長崎県長崎市平野町7-8
電話：095-814-0055

平和祈念館へのアクセス

[JR長崎駅から]

■ 市内電車

赤迫行(系統番号1または3)で浜口町下車徒歩4分

■ バス

滑石・時津・女の部方面行で浜口町下車徒歩4分

*専用駐車場はございませんので、

当日は公共交通機関をご利用ください

お問い合わせ

核兵器廃絶長崎連絡協議会 事務局
〒852-8521 長崎市文教町1-14
Tel. 095-819-2252/Fax. 095-819-2165



1 吉田 文彦 2 太田 昌克 3 鈴木 達治郎 4 小溝 泰義 5 森永 玲



6 中村 桂子 7 孫 賢鎮 8 桐谷 多恵子 9 広瀬 訓

3 会場

アルカスSASEBO 大会議室 A

住所：〒857-0863 長崎県佐世保市三浦町2-3

電話：0956-42-1111

アルカスSASEBOへのアクセス

JR・MR佐世保駅から徒歩5分

■ 車

西九州自動車道佐世保みなとインターから車で約5分

長崎空港からバスで約80分

■ 主催：核兵器廃絶長崎連絡協議会 (PCU-NC)

■ 共催：長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)

第1回核兵器廃絶市民講座

「トランプ政権の核政策と日本」

日時：2017年5月27日（土）13:30～15:30

場所：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ

講師：吉田 文彦（ヨシダ フミヒコ） RECNA 副センター長・教授

太田 昌克（オオタ マサカツ） 共同通信編集委員/RECNA 客員教授

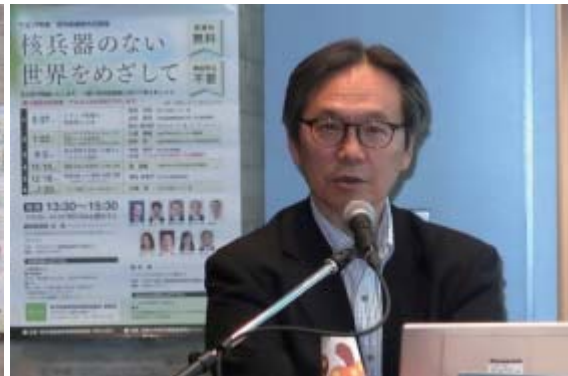
主催：核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共催：長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

講演をする太田先生



講演をする吉田先生



平成29年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界を目指して」の第1回目（今年度初回）が、5月27日（土）に国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジにて行われました。講師は、吉田文彦教授（RECNA 副センター長）と平成29年度より客員教授に就任いたしました太田昌克氏がつとめました。

「トランプ政権の核政策と日本」と題し、はじめに太田氏がオバマ前米大統領が検討していたという核兵器先制不使用と日本政府の対応についてふれ、新たな核兵器開発を唱えるトランプ米大統領の核政策について講演を行いました。続いて吉田教授は、北朝鮮の核への対応策を例に、日米安保の核の傘に関する事前協議制度の下で、どのようなシナリオが考えられるのかを説明したうえで、核の傘の実効性のなさについて講演を行いました。

最後に、鈴木達治郎教授（RECNA センター長）を交えた両講師のトークセッションが行われ、太田客員教授、吉田教授は、マスメディアやジャーナリズムの在り方に始まり、北朝鮮問題、核兵器禁止条約への対応等について、意見交換を行いました。講座には約75名の市民・学生が集まりました。

た。新しく誕生したトランプ米大統領の核政策や緊迫する北朝鮮問題を中心に、忌憚のない意見を聞き、「核問題」について身近に感じられた時間となりました。

講演後には「RECNA と語ろう」を行い、RECNA 教員と参加された市民・学生たちの意見の交換、そして講演の内容や RECNA の今後のあり方など語り合いました。

第2回核兵器廃絶市民講座

「ヒロシマ・ナガサキのメッセージを世界にそして未来世代に〈核兵器のない平和な世界をめざす平和首長会議の活動〉」

日時： 2017年7月22日（土）13:30～15:30

場所： 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ

講師： 小溝 泰義 （広島平和文化センター理事長）

森永 玲 （長崎新聞論説委員長/RECNA 客員教授）※聞き手

主催： 核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共催： 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

講演をする小溝氏



森永氏と小溝氏



7月22日(土)に、平成29年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界を目指して」の第2回目が国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジにて行われました。「核兵器のない平和な世界を目指す平和首長会議の活動」と題し、小溝泰義氏(広島平和文化センター理事長)が講師を務めました。講座の後半では小溝氏と森永玲 RECNA 客員教授(長崎新聞論説委員長)との対談が行われました。

まず初めに平和首長会議は、「被爆者が訴える核廃絶の思いを重視して平和な世界を実現する」ことを目的としているとの紹介から始まり、併せて、本年8月に長崎市で開催される「平和首長会議総会」は、2020年に「核のない世界」を実現させるための仕上げの総会である、とその意義を述べました。

核兵器廃絶のためには市民社会の役割は大きいとし、世界の指導者を動かしていくために個々が立ち上がることの重要性を強調しました。

後半の対談では、先日採択された核兵器禁止条約について触れ、核保有国も核廃絶についてさらに議論しなければならないと述べました。そうすると、他国も核廃絶に取り組むという連鎖反応が起きるから、それを後押しするために市民社会の運動が大きな役割を果たすだろうと結びました。

講座には約 80 名の市民が集まりました。核廃絶において、いかに市民一人ひとりが行動を起こしていくかについて考える大切な時間となりました。

講演後には「RECNAと語ろう」を行いました。RECNA 教員と参加された市民・学生が、講演の内容や RECNA の今後について語り合いました。

第3回核兵器廃絶市民講座

「核兵器禁止条約への動きとこれからの展望」

日時： 2017年9月2日（土） 13：30～15：30

場所： アルカス佐世保

講師： 中村 桂子（長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授）

主催： 核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共催： 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

鈴木センター長の挨拶



講演をする中村准教授



9月2日（土）に、平成29年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界をめざして」の第3回目がアルカス SASEBO（佐世保市）にて行われました。

「核兵器禁止条約への動きとこれからの展望」と題し、長崎大学核兵器廃絶研究センターの中村桂子准教授が講師を務めました。

冒頭で、今年7月7日に核兵器禁止条約が採択されたことは歴史的なことだと述べ、条約が採択されるまでの歩みを振り返りました。2010年頃から「核兵器は存在するだけでリスクであり、壊滅的な被害をもたらす」と訴える人道面からのアプローチが始まり、そこから核問題は地球規模の問題だという意識が広がり条約につながったとしました。そして何より、被爆者の長年の活動や思いが実を結んだ結果だと強調しました。一方で、日本が抱える今後の課題についても触れ、それは、禁止条約交渉に対して「被爆国としての対面」と「核同盟国」との間で揺れ動いているということであり、今後の日本はどのような道を進むべきか共に考えていくべきだと締めくくりました。

講座には約60名の市民が集まりました。また、韓国・釜山から研修に訪れた釜山の大学生ら50名も参加しました。核廃絶において、いかに市民一人ひとりが行動を起こしていくかについて考える大切な時間となりました。

講演後には「RECNAと語ろう」を行いました。RECNA教員と市民・釜山からの研修生た

ちが、講演の内容について質疑応答を含め熱く語り合いました。

第4回核兵器廃絶市民講座

「朝鮮半島の非核化:その現状と展望」

日時: 2017年11月11日(土)13:30~15:30

場所: 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ

講師: 孫 賢鎮 (広島市立大学平和研究所准教授)

主催: 核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共催: 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

講演をする孫氏



会場のようす



平成29年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界を目指して」の第4回目が11月11日(土)に国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジにて行われました。「朝鮮半島の非核化—その現状と展望」と題し、孫賢鎮氏(広島市立大学平和研究所准教授)が講師を務めました。まず冒頭で、孫氏が韓国統一省で北朝鮮の人権問題や法律に関連する仕事に従事していたころの自身の体験に基づき、間近で見えてきた北朝鮮の情勢について以前よりは安定しているとし、その理由として「スイスでの経験なども踏まえて経済や民主主義に理解のある金正恩政権となったからであろう」と述べました。

また1980年代からの朝鮮半島核問題の30年間を振り返り、非核化にむけて6者協議が始まったものの、北朝鮮の核兵器の廃棄をうたうアメリカ、韓国、ロシア、北朝鮮の安定を最重視する中国、拉致問題の解決を要求する日本の、それぞれの立ち位置の微妙な違いについて語りました。そして北朝鮮の核開発の高度化は近い将来実現するであろうとし、朝鮮半島の非核化を目指すためには、まず核の傘下に入っている日本や韓国で、平和に向けて市民レベルの議論を行うことが重要であると結びました。講座には約50名の市民が集まり、今後核兵器廃絶に向けてさらに市民団体、市民レベルで共に行動を継続させていくことの大切さを考える時間となりました。

講演後には「RECNAと語ろう」を行い、講演の内容やRECNAの今後について、RECNA教員と参加された市民・学生による活発な意見交換が行われました。

第5回核兵器廃絶市民講座

「戦後長崎における被爆の痕跡と復興－1940年代、50年代を中心に－」

日時： 2017年12月16日（土）13:30～15:30

場所： 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ

講師： 桐谷 多恵子（RECNA 客員研究員）

主催： 核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共催： 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

講演をする桐谷氏



会場のようす



平成29年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界を目指して」の第5回目が12月16日（土）に国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジにて行われました。「戦後長崎における被爆の痕跡と復興－1940年代、50年代を中心に－」と題し、長崎大学核兵器廃絶研究センターの桐谷多恵子客員研究員が講師を務めました。

まず冒頭で、長崎で被爆した祖母の存在が研究者を目指した原点であること触れ、無名人にも名前と人生があり、それらも歴史を作っていると語りました。自らの研究対象である1940年代後半～50年代の広島・長崎における市民目線での復興について、ここでは両都市の復興を地理的視点も交えながら説明しました。

最後に被爆体験の継承について述べ、被爆体験のない世代が新たな語り手となるには、人間的悲慘を自分事として向き合う努力が必要だと強調しました。これからの課題「継承」を繋げていく力がいかに大切を実感しました。

講座には約70名の市民が集まり、復興とは何か、被爆体験の継承をどうやってすべきかを考える有意義な時間となりました。

講演後には「RECNAと語ろう」を行い、講演の内容やRECNAの今後について、RECNA教員と参加された市民・学生による熱い思いの意見交換が行われました。

第6回核兵器廃絶市民講座

『ゴジラ誕生』：私たちの核兵器イメージ

日時：2018年1月20日（土）13:30～15:30

場所：国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ

講師：広瀬 訓（RECNA 副センター長）

主催：核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共催：長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

講演をする広瀬副センター長



会場のようす



平成29年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界をめざして」の第6回目、最終回が1月20日（土）に国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジにて行われました。

『ゴジラ誕生』：私たちの核兵器イメージ」と題し、長崎大学核兵器廃絶研究センターの広瀬訓副センター長が講師を務めました。

まず冒頭で、私たちが核兵器に対して抱く「怖い」というイメージがどこから出てくるのかが自身の問題意識であると述べ、ゴジラに関連する映画を例に取り上げて説明しました。映画のテーマが社会背景の変化に伴い「核実験」、「核戦争」、「核テロ」、「被爆」と移りゆく中で、私たちが持つイメージも形成されていったと話しました。

最後には、私たちに恐怖心や危機感を抱かせている核実験について、それを禁止する意義は技術的・軍事的・政治的などところにあり、そもそもの実験を禁止する体制を作り上げることが、核兵器の存在意義を低下させることに結びつくことを強調しました。

講座には、約60名の市民が集まり、核兵器へのイメージや、核実験をどのように禁止させていくかなどを考える有意義な時間となりました。

講演後の「RECNAと語ろう」には、学生が多く足を運び、核爆発実験を全面的に禁止する包括的核実験禁止条約（CTBT）や核兵器禁止条約がより影響力を持つためには今後どうあるべきなのかといった、核兵器に関する現在の問題について熱く議論を交わしました。